

令和2年度 地区福祉委員会、地域活動のまとめ

	各地区の動き	専門職からみた課題と今後の展望
精道地区	<ul style="list-style-type: none"> ・生きがいデイサービスは、7月に茶屋集会所の体操、10月に竹園集会所のカラオケと体操が再開。体操は会場だった高齢者施設の代わりに、近くのお寺のお堂で開催。 ・各町ごとに訪問活動を実施。 ・高校生の協力を得てスマホ講座を開催。（茶屋之町自治会×甲南高校、公光町自治会×クラーク高校） 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区内の町の数が多く、地区全体としての活動が難しいため地区福祉委員会での議論が少なく、情報共有と研修が主になっている。 【今後の展望】町ごとの活動とその活動から見られる課題の把握に努めると同時に情報共有を今後の活動への議論につなげる。
山手地区	<ul style="list-style-type: none"> ・各町ごとに訪問活動を実施。 ・民生委員、福祉推進委員の連絡先を記載した手紙や、感染対策の情報などをポスティング。 ・生きがいデイサービス（大原集会所の歌おう会）は、9月から2部制で再開。 	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域が広く、また地形的な地域差も大きく、地区全体で話し合う課題やテーマを設定するのが難しいため、地区福祉委員会での議論が少なく、情報共有と研修が主になっている。 ・コロナ対策を考えると、十分な広さのある会場が地域に無いため、地区福祉委員会全員での会議の開催ができておらず、地区全体での議論が難しかった。 【今後の展望】町ごとの活動とその活動から見られる課題の把握に努めると同時に情報共有を今後の活動への議論につなげる。
宮川地区	<ul style="list-style-type: none"> ・5月に打出小槌町、9月に宮川町でコープ移動店舗が開始。 ・各町ごとに訪問活動や、電話による安否確認を実施。 ・呉川町町内会が、コープ浜芦屋店と協働で、マスクプロジェクトとして各家庭よりマスクを回収。マスクは芦屋市社協を通じて、市内の学校や福祉施設に提供。 ・2月に打出浜地区と合同で小地域福祉ブロック会議として、防災の講演会を開催。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会単位での活動が活発である一方、地区全体としての活動が少なく、地区福祉委員会では生きがいデイサービスの段取り確認や情報共有、研修が主になっている。 【今後の展望】研修を、民生委員や福祉推進委員のみにとどまらず、自治会等地域住民向けに実施することで、自治会単位での活動を支援する地区福祉委員会をめざす。
岩園地区	<ul style="list-style-type: none"> ・地区福祉委員会として初めて、地区全体で高齢者訪問事業を実施。 ・各町ごとに訪問や、電話での安否確認を実施。 ・甲南高校の協力で、翠ヶ丘町老人会とオンライン交流会を開催。 ・生きがいデイサービスや高齢者のつどいを一度も行えなかったため、地区福祉だよりの紙面を工夫し外出のきっかけ作りのため、地区内のお出かけスポットを紹介。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会場の定員数が限られ、地区福祉委員会全員での会議の開催ができなかった。それにより十分な議論ができなかった。 ・生きがいデイサービスは、もともと年2回しか開催されていないが、それに代わる活動についての把握ができていない。そのため、活動の必要性を地域に投げかけることができない。 ・圏域が広く、地区全体に共通する課題を把握するのが難しいため、地区福祉委員会での議論が少ない。 【今後の展望】町ごとの活動とその活動から見られる課題の把握に努めると同時に情報共有を今後の活動への議論につなげる。
朝日ヶ丘地区	<ul style="list-style-type: none"> ・夏と冬の2回、高齢者訪問を実施。 ・委員会で訪問後に「困りごとを訴える人がいた」という委員からの“気づき”があった。 ・小地域福祉ブロック会議として、地域住民や店舗等を対象に認知症サポーター養成講座を企画していたが、緊急事態宣言により開催できなかったため、地区福祉だよりに認知症の特集ページを設けた。 ・5月より、東山町でコープの移動店舗が開始。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生きがいデイサービスの利用者が伸び悩んでいるが、プログラムや、情報発信の見直し等の議論が行われないう。 ・東山町の移動店舗の客数が伸び悩んでいるが、自治会はあまり問題視していない。一方、民生委員、福祉推進委員や専門職は、買い物に困っている人をキャッチしている。 【今後の展望】ひとりの気づきが、社会資源につながるよう、気づきを共有する場づくりと、生きがいデイサービス等の改善を行う。
三条地区	<ul style="list-style-type: none"> ・コミスクの協力で地域の有志の方が作ったマスクを、ひとり暮らし高齢者に配布。 ・上記の配布の他に夏と冬の2回、高齢者訪問活動を実施。 ・生きがいデイサービスは7月から体操、9月から茶話会、10月から歌う会を再開。体操は1～2月の2度目の緊急事態宣言の際も、介護予防のために継続して開催。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区福祉委員会独自の活動、コミスクと連携した活動等が活発に行われており、地区福祉委員会での話し合いがそれらの企画等が主になっている。そのため、委員個人の気づきから生まれる課題を話し合う機会が少ない。 【今後の展望】ひとりの気づきから話し合いにつながり、課題解決に向かう地区福祉委員会運営に努める。
打出浜地区	<ul style="list-style-type: none"> ・地区福祉委員会として初めて、高齢者訪問を実施。 ・2月に宮川地区と合同で小地域福祉ブロック会議として、防災の講演会を開催。その2週間後すぐに小学校の通学路と、避難経路の点検を兼ねた「まち歩き」を実施。 ・打出商店街の「まごのて」が8月に閉所したが、南宮町自治会の「江尻川会館」を借り再開。 ・精神障がい者世帯について、障がい相談員から民生委員と福祉推進委員に見まもりを依頼。 	<ul style="list-style-type: none"> ・春日集会所が廃止され、打出教育文化センターへ統合される案がある。住民の集う場、避難所機能への影響が懸念される。 ・地区が43号線の南北に分かれており、住民のコミュニティ意識が異なる。43号線より北の春日集会所では、体操と歌の生きがいデイサービスが再開したが、南の打出集会所では今年度は一度も開催されなかった。 【今後の展望】春日集会所の統廃合問題から、住民の防災の意識が高まっている。令和2年度に行った小プロ・まち歩きの学びを生かし、地区全体で話し合う機会を持ちたい。また、高齢者訪問活動が定着するよう支援する。
潮見地区	<ul style="list-style-type: none"> ・地区福祉委員会として初めて、高齢者訪問を実施。 ・地区福祉委員会のサコッシュを作り、活動の際に身につけることでPRに取り組んだ。 ・地区福祉委員会と高齢者生活支援センターとの意見交換会を開催。 ・コロナ禍においても潮芦屋ふれあい元気の会は、各種のイベントを開催し活動を継続。 ・地区福祉委員会で議論した結果、地区福祉だよりの内容を大幅に見直した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生きがいデイサービスの参加者が少ないため、主催する地区福祉委員会のモチベーションが下がっている。地域で居場所を探している高齢者がいるという民生委員の“気づき”もある。 ・潮見ブロックと潮芦屋ブロックのコミュニティの違い等から、地区全体で話し合いを行うことが難しい。 ・潮芦屋ふれあい元気の会が、施設の参加が少なく限られた数名による議論になっており、協議体の形が弱くなってきている。 【今後の展望】ひとりの気づきが、社会資源につながるよう、気づきを共有する場づくりと、生きがいデイサービス等の改善を行う。
浜風地区	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議をきっかけに認知症高齢者が、生きがいデイサービスに参加できるようになる。 ・民生委員が訪問活動時に、ひとり暮らし高齢者の困りごとを聞いた。そこから自治会が福祉活動に取り組むきっかけとするために役員会に働きかけを行う。 ・福祉推進委員が、個人宅の新聞が溜まっている等の気づきから専門機関につないだ。 ・地区福祉委員会と高齢者生活支援センターとの意見交換会を開催。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動の中心であった、芦屋浜自治連合会の行事のほとんどが中止になったため、住民にとって活動の場が少なくなった。 ・集会所の行事も多くが中止になっており、住民にとっての居場所が少なくなった。 ・災害時要配慮者名簿の登録数から考えると、訪問事業の対象者が少ないため、地域とのつながりの少ない高齢者が多いことが考えられる。 【今後の展望】気づきから話し合いにつなぐことはできているので、課題解決に向かう会議運営に努める。